

平成 23 年 7 月 2 日

東日本大震災に対する日本褥瘡学会東北地方会からの声明

日本褥瘡学会東北地方会

この度の東日本大震災での被害に対して、日本褥瘡学会および会員各位におかれましては、多大なご支援、ご援助を賜り、被災者を代表致しまして厚く御礼申し上げます。

去る 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東北地方から関東地方にかけて、マグニチュード 9.0 の巨大地震に見舞われ、東北地方太平洋沿岸部では、今までに経験のない揺れと津波により甚大な被害を受けました。亡くなられた方、未だ行方が分からぬ方が大勢いらっしゃり、沈痛の念が絶えません。

今回、私たちが経験しました被災の状況についてご報告させて頂きます。

(地震発生当初の状況について)

震災発生当初、地震さらに沿岸部では津波による外傷等で、多数の救急患者が搬送され、受け入れ可能人数を大きく超える事態となりました。また職員も被災したため、患者 1 人あたりの医師、看護師、コメディカルの人数が不足し、十分な治療、看護、介護が出来ない不測の事態となりました。そのため褥瘡ケアに関して、体位変換やおむつ交換の回数が減り、皮膚の観察や創部に対する処置が後回しとなり、ケアが疎かになってしまったことは否めませんでした。

(ライフラインの問題について)

水道が絶たれ、トイレ、手洗いなど衛生状態の確保が困難となり、さらに飲み水も不足する事態となりました。皮膚や褥瘡創部の清潔を保つことが難しい状況が続いたことは、褥瘡発生および悪化の大きな要因となりました。また一部の地域では長期にわたり電気も絶たれ、医療機器の使用が困難となり、適切な治療を行うことができませんでした。

(物資の不足について)

交通網の被害による、周辺地域との断絶で、絶対的に物資が不足致しました。食料が不足し、そのため患者の食事を 1 日 2 食に減らす、少ない量にするなどの対策を講じざるを得なくなりました。さらに点滴や薬品が不足し、在庫してある残り少ない薬品を少しづつ使うという状況でした。褥瘡に対する被覆材や軟膏、ケア用品も不足し、適材を使用することができませんでした。

(福島原発の影響について)

福島県浜通り地方では、福島原発の影響により、周辺地域では集団避難、病院閉鎖という事態に追い込まれ、多くの患者が遠方へ移送されました。移送時

のストレス、新しい環境への適応など、特に高齢者には大きな負担を負わせることとなりました。また避難勧告が出ていない地域におきましても、マスコミによる被爆の危険性が大きく報道されたため、多くの職員が自主避難し、機能を維持できない病院、医院が続出しました。

こうした状況は、医療機関のみならず、施設、さらに自宅や避難所で治療、養生をされておられた方々を、危機的な状況に追い込みました。決して整ったといえない状態で寝かされ、看護、介護の手は不足し、さらに食事や衛生面などの問題も拍車をかけ、この震災を契機に褥瘡を発生し、またそれまで治癒傾向にあった方の褥瘡も悪化するなどの事例が多発しました。多くの高齢者が褥瘡に悩まされましたが、こうした状況の中では、十分な治療、ケアができず、自宅や避難所に置かれていたというのが実情でした。また病院へ搬送された方も、被災後かなり時間を要してから搬送された方が多くを占め、重症化してから治療を開始するといった具合でした。

その中にあり、日本褥瘡学会よりマットレスや創傷被覆材、軟膏、洗浄用具などのご支援を頂けましたことは、私どもにとって大きな力となりました。物流が滞り、十分な物品が揃えられない状況で、頂戴しました用品は、多くの方々の予防、治療に非常に有用でございました。心より感謝申し上げます。

今、私たちが望むことは、今後同じような災害に直面した場合に、被災地に対し迅速に対応できるネットワークの構築とシステム作りです。今回の教訓を生かし、新たな被害においても、褥瘡患者を作らない、また褥瘡ができても迅速に治療やケアにあたれる体勢作りを熱望して止みません。

最後に、東日本大震災において、ご支援を頂きました皆様に厚く御礼を申し上げると共に、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、また被害を受けられた方々へお見舞いを申し上げ、日本褥瘡学会東北地方会の声明とさせて頂きます。